

2009年度秋学期授業アンケート結果報告

下関市立大学 FD 委員会

本委員会は、2009年12月16日～2010年1月14日の期間に実施した授業アンケートの結果に対して、本学教員（非常勤も含む）から提出されたコメントを、科目群に基づき、講義、演習（基礎演習・教養演習・専門演習）、語学、実習（スポーツ実践・コンピュータ実習）に分類した上で、それぞれ、内容、方法、授業環境、その他の観点から整理した。それらを以下に示す。

講義

内容

【難易度】

- ・レポートの問題が難しいという意見があったが、学生の基礎学力を確かめる意味でもどのような点が難しいのか、具体的に確認しながら対処してゆく必要があると考える。
- ・授業難易度が高かったという意見もかなりみられたが、レベルを下げることには問題がある。この数年、学生の学力低下は著しい。それに応じて低水準均衡をするのではなく、全体の上から三分の一のレベルで講義をして、このレベルまで全体水準を引き上げる努力をすべきである。
- ・専門用語が難しいという意見が多い。
- ・ビデオでの講義が多すぎる、もっと体系的な話を聞きたかったという記述があった。学生レベルに合わせての授業になるので、悩ましい問題である。
- ・高校レベルの復習（世界史・地理）をすることにより、授業理解度を促進させた。
- ・講読する教材の内容が少し難しいとの意見があった。この点については、すでに授業途中で学生から意見が出され、比較的平易な教材に変更した。
- ・自由記述には「自分には難しすぎた」という回答があった。授業内容は難しくないが、自分には向いていなかったということであろうか。

【学生の学力格差・学習意欲の格差】

- ・学生どうしてレベルの差が開いていた（４）。
- ・要点をまとめた話し方をしてほしいというコメントがある一方で、説明がわかりやすいというコメントもあった。この矛盾をどう捉えたらよいのか。学生のレベルの差、理解力の差が大きくなっているような気がする。下に合わせるべきか悩むところである。
- ・良かった点「シャキーン」、改善の提案「ショボーン」、という自由記述に大学教員はどう対応したらよいのか。授業アンケートの意味が学生に理解されていないのではないか。

【具体的事例・身近な事例の活用】

- ・事例が面白かったとの評価があった。
- ・実際の政策を取り上げていくようにしたい。

- ・身近な問題をテーマに挙げ、理論と現状を分かりやすく説明したことが良かった。
- ・外部講師により現状説明を行ってもらったことが良かった。
- ・毎回、世界経済・日本経済に関するトピックスを紹介することによって、現実に関する興味を喚起した。
- ・身近な食品や嗜好品を教材にしたことが評価された。
- ・体験談や裏話、話題となっているテーマを多用したことが興味を持たせる要因となった。
- ・最新の動向を取り入れながら講義を実施していきたい(2)
- ・地域ブランドを説明する等、魅力的な講義をすべく、失敗を恐れずに目指す。
- ・「アジア、特に台湾、香港の経済に対する見識をより深めることが出来て良かった」、「常に新しいデータを使う点が良かった」など、講義内容に対して非常に良い評価が寄せられた。

【その他】

- ・「ゲーム理論や行動経済学をやって欲しい」というコメントがあった。
- ・マクロ的アプローチを深く学ぶことが出来たという評価が見られた。
- ・いろいろな文献を紹介したことが良かったとの記述あり。
- ・毎年夏休みの、青島研修フェリー旅行が恒例になれば、市大のアジア化が飛躍的に高まると思われる。

方法

【学生への配慮・対話型授業】

- ・学生の反応に配慮せずに一方的に話しているという印象を持たれているように感じる。
- ・対話型の講義を通じてうまく伝えられたと考える。
- ・ミニッツペーパーを毎回提出させた。
- ・コミュニケーションシートの配付回収を授業で毎回行なったが、思ったほどの効果は得られなかった。
- ・毎講義ごとにレポート課題を課するなどをしながら、対話授業方式で講義を進めて行きたい。
- ・講義終了時に本日の講義感想メモ等を配布し、対話できる環境をつくりたい。
- ・毎回の講義の終わりに、可能な範囲で、授業後にふり返ってほしい点を示すことや、次回の講義の予告などを引き続き行う。
- ・毎週授業へのアンケートを行っている。
- ・授業の最後に質問を書かせ、次週に回答する形式をとったが、次週に質問したのでは、学生は何を質問したのか忘れていて関心も薄いという批判もあるが、即座には答えられないものもあり、どうしても翌週に回答ということになってしまった。良い質問の例を挙げつつ、質の良い質問ができるように指導していきたい。
- ・学生に対する対応が丁寧であるという意見が多かった。
- ・学生が問題を自主的に解けるようになるまで根気強く付き合いたい。
- ・質問や相談がしやすい雰囲気作りを心掛けた
- ・関連事項を説明するとき、テキストの頁などを板書するなど、かなり丁寧に指示しているつもりである。テキストを早めに揃えること、毎回出席し、配布資料はファイルして授業に持ってくることなどの指導を徹底したい。
- ・良い評価と逆の評価があるのは毎年のことであり、意見を寄せてくれた学生が講義室のどこに座っていたかで評価を見極めたい。
- ・テキスト文章を棒読み(本当は丁寧な講義と思っている)することは、次年度はやめる。
- ・授業指導案に対する指導をしてほしい、模擬授業に対してみんなで意見を言い合う機会を設けてほしいとい

う意見があった。

- ・学生にも黒板に書かせて授業に積極的に参加させるようにした。
- ・全体として、資料をただ読むのではなく、もっと考えさせる授業にあらためていきたいと思っている。
- ・学生との相互交流を図りたい。

【授業の進度】

- ・「第1回からあまり進んでいない」との批評を受けた。
- ・予定通りの講義ができなかったが、その方が良かったとも思っている。
- ・第一回目の授業でのシラバスの説明を充実させる。またシラバスの内容と異なったことを行っていないかを確認する。

【分かりやすい説明】

- ・試験問題の作成を軸に、現状よりも深い理解が進むような仕掛けを検討したい。
- ・授業の最初に、前回のポイントを簡単にまとめて解説することを心掛けた。
- ・学生からの「わかりやすい」という評価は肯定的なものと受け取って良いのだろうが、あまりにも学生から「わかりやすい」と言われると、「大学の講義は、君たちにとってそんなにも扱いやすい、たやすいものではない」と反発したくなることも確か。彼らの学ぶ意欲を下げずに、いかに「わからないこと」「簡単に答えが出ないこと」に触れさせていくかが課題。
- ・説明が分かりやすい、内容が理解しやすいというコメントが見られた(3)。

【説明のスピード】

- ・授業が早いとの指摘を受けた(2)。
- ・ゆっくり話すように心掛け、メモの時間をとれるようにしたい(3)。

【時間配分】

- ・学生の反応や受け止め方に配慮しながら授業を進んでいくと時間をオーバーしてしまうことがある。一つの授業で取り上げたい内容の量や授業の進み方に気をつけて終了時間を過ぎないように気をつけたい。
- ・データ分析までやれるようにしたいので、時間配分を考える。
- ・実習時間をもっと確保できるように、講義と実習の時間配分に気を配りたい。
- ・時間の厳守と有効活用(例えば資料をただ読むのではなく、もっと考えさせる時間をつくる等)に心がけていきたい。

【板書の改善】

- ・パワーポイントを使用したのが分かりやすかったとの評価を受けた。
- ・パワーポイントだけでなく板書もしてほしいという意見があった。
- ・パワーポイントの使い方に指摘を受けた。
- ・板書が多かった点を、高く評価するコメントと、逆に、低く評価するコメントの両方があった。
- ・板書の方法については、「もう少し詳しく」と「キーワードが書かれていて、自分で考えるようになるのでよかった」と双方のコメントをうけた。
- ・板書が好評である一方、「黒板の字をもっと大きく書いてほしい」「もっと丁寧に書いてほしい」「板書の量

が多すぎる」という意見もあった。

- ・板書を増やし、学生とのやり取りにもっと時間を割くようにしていきたい。
- ・板書を改善する必要がある(13)。
- ・可動式黒板の4面一枚で授業内容を表現しようと試みたが、説明をしていく上で書き足しをしてしまうことがあり、このことが学生にとってノートを取りづらくしていた面がある。ある程度講義内容をプリントし、補足の部分を板書しながら、今どの部分を説明しているか分かるようにすることを考えている。
- ・板書の書き足しをなるべくしないように工夫が必要である。
- ・今後は板書を少なくし、説明時間を増やしたい。
- ・今後は板書を少なくし、OHP、パワーポイント、レジュメ配布に徹したい。
- ・板書と説明の時間を分けて欲しいという要望があった。プリントを増やすことで、説明を聞き、考える時間を増やしたい。
- ・補足説明について、口頭で行うのではなく板書してほしいとのコメントがあったが、できれば口頭で説明した部分についても重要と思える部分は自分でノートに記述してほしいので、授業で自分からノートに書き取りするように促していきたい。
- ・ノートの取り方が分からないという記述があった。

【資料の改善】

- ・計算問題集の配布を行った。
- ・資料を配布したのが評価された(4)。
- ・配布した資料へのまとめの小テストを行った。文章力が身に付く、時事問題に強くなる、就活に役立つという理由で評判がよい。
- ・資料は講義で使用するだけでなく、予習・復習に役立つように、その作り方を考えたい
- ・配付資料に基づく説明の仕方をさらに工夫したい(2)。
- ・資料や補助プリントの配布を行った。
- ・資料が読みづらいとの指摘があった。
- ・資料が多すぎるという指摘は理解しがたい。資料は多いほど良いと思う。
- ・授業で実践的な資料を用い、図を多く用いて解説したことが評価された。
- ・本科目では板書による理論ベースの講義が中心だが、その中にビジュアル機器を用いて時事問題の解説を一コマでも設けると、学生にとってはどちらかという息抜きの時間となり好評のようである。
- ・次回取り上げる箇所の難読英単語について、あらかじめ教員の側で意味を調べてリストしたプリントを配付した。

【視聴覚教材の活用】

- ・ビデオは概ね好評だったが、その分説明の時間が少なくなるのが悩み所ではある。
- ・ビデオを見せたのが評価された(2)。
- ・「グラフや計算を用いないので理解しやすい」というコメントがあった。
- ・グラフや図解を使った視覚的に分かる授業を心掛けた。
- ・視聴覚資料での授業の補完が理解を助けた。
- ・ビジュアル資料の活用が足りなかった(2)。

【学生の自主学習の促進】

- ・出来るだけ多くのリーディング課題を出すことを考えている。
- ・参考図書をもっと紹介してほしいというコメントがあった。
- ・予習、復習を指示しているが、それを行っている受講生が少ない(3)。
- ・宿題や課題を多く課しているが、予習・復習の点数が低かった。宿題や課題の勉強で忙しく、自習的な予習・復習の時間が十分に取れていない可能性がある。課題や小テストの量が適切か検討したい。

【小テスト・演習問題の活用】

- ・各論ごとに小テストを実施してコメントと補足説明をした点が「講義の復習に役立った」との評価を受けた。
- ・4000字のレポートの提出を義務付けた。この点に関して、文字数を減らして欲しい、レポート未提出者にも期末試験の受験資格を与えて欲しいとの要望が出されている。だが、レポート作成は受講生にとって講義外での重要な自主学習の機会であり、また4000字は必ずしも長文とは言えない。したがって、レポート提出は本年度と同様に今後も継続したい。
- ・授業中に問題演習があったことが評価された。

授業環境

【欠席・遅刻】

- ・出欠を毎回取っているが、代筆が多く見受けられる。
- ・来年度は出欠をとるようにしたい。
- ・無断欠席の厳禁、やむを得ない欠席の場合の事前連絡を義務付けていきたい。
- ・出席者が少ない事に対して、対応を取るべきだとの記述があった(2)。
- ・最後2回は就職活動の影響で極端に出席率が低下した。

【静謐な授業環境の維持】

- ・私語に関する評価が低い。大教室での講義では気をつける必要がある(2)。
- ・騒がしい学生に注意したことが評価された。
- ・「私語を注意する」「私語がない」「騒がしい生徒への弾圧」と評価されたが、「どなりつける」「ひどいことを言われた」とも批判された。

【物理的環境】

- ・スクリーンが見づらかった(2)。
- ・教室のサイズが大きすぎた。
- ・出席者数に対して教室が狭すぎるという指摘があった。
- ・ワイヤレスマイクの方が後方座席の学生にも通るので、全てワイヤレスマイクで講義した。
- ・室温の設定が暑い、寒い(5)。
- ・授業そのものの内容よりも、技術的改善を望む意見が多かった(板書の工夫、エアコン、照明、教壇の位置 教壇の影になって黒板が見えない)
- ・教室のブラインドが壊れているところが多いので修理してほしい。
- ・122番教室は暗くて授業がやりづらい。

その他

【定期試験について】

- ・最後に実施される授業アンケートで初めて授業への不満足な面、リクエストを言われても、授業が終わっているため授業改善・改革の仕様がな(非常勤)
- ・定期試験について、学生が模範解答をあらかじめ作成し、持ち込みありの場合はそれを写し、なしの場合は丸暗記する学生も多い。試験問題を事前に伝えているわけではないが、ある程度のヤマをかけて準備しているようである。その結果、学籍番号の近いものが同じような点数になるものが多い。

【カリキュラム編成について】

- ・この科目は経済2年生向けの導入科目として位置づけられているが、その時間の裏に、経済系の必修科目群が入っている。科目の時間割上での配置を考えなければならない。
- ・出席数をもっと増加させ抜本的対策を考慮する必要あり(個別的改善、例えば出席をとる、授業内容そのものを魅力的にする等だけでは、限界がある)。カリキュラム改革が必要であろう。例えば、総単位数の縮減、開講年度の変更(3年時から1・2年時開講へ)、時間割の変更など。
- ・受講の資格要件(金融論の既習得)を充たしていない者にも受講を許したこともあって、基礎知識の確認や時事的な事項の解説・討議に時間を取られ、初期配布の資料を使った授業が12月初頭まで続いた。

【アンケートについて】

- ・回答者が少なかった。
- ・就職活動の影響で欠席せざるを得ない状況なので、アンケートの実施時期に柔軟性があればいいデータが収集できるのでは。
- ・対象とする時期をもっと広げてほしい旨の要望があった。

演習

内容

【難易度】

- ・授業難易度については、難易度を落とすのではなく、学生の理解を高める方向で講義を行う必要がある。そのためには、今以上に学生とコミュニケーションをとらなければならないと考えている。

【授業テーマと問題関心の喚起】

- ・身近な話題（教育投資や未婚社会、婚活など）からはじめて、個人的な認識や判断、行為などに社会的なものが含まれ、それが規範として影響を及ぼしているさまについて繰り返し考察したことが評価に繋がった。
- ・関心を高めることができ、幅広い視点を持つことができています。
- ・多くの資料を使用し、日常の問題との関連を明らかにしながら詳しく説明した。
- ・「とても考えさせられる授業を展開している」という記載があった
- ・プロスポーツの実態についてよく学習できた、というコメントがあった。

【達成度】

- ・卒論の水準及び手法（インターネット情報をうのみにした執筆等）に満足がいかなかった。

方法

【学生の主体的な学習と積極的な授業参加】

- ・各自の個別発表に対して、他のゼミ生の関心をひきつけ、発言させるための工夫をもっとすべきであった。
- ・ディベートを学びたいという希望も多いので、次年度は機会を設けたい。
- ・授業時間にディベート等、学生が発言する時間を長くしてほしいという意見があった。
- ・主体的に学習するようになること、真の学力を身につけさせること、そのための具体的な方策を考えねばならない。
- ・今年度（3年次において）は、受け取ったゼミ生の印象から、昨年度のようにテーマに沿った資料収集 卒論構成 文章化という作業を強制せずに、ゼミ生が意見を自由に述べやすい雰囲気をつくることを重視した。
- ・レジュメがたくさん作れたという評価を受けた。
- ・自由に発言でき、実際の現場を見ることができてよかったという評価を受けた。
- ・納得がいくまで何度も取り上げて意見交換をする機会を増やした。
- ・議論の時間を多く設けたことが好評だった。
- ・議論の機会を多く設け、発表内容とともにプレゼンテーションについても指導したことが好評であった。
- ・真剣に議論をさせるところ、あらゆる方法で学生同士が一人ひとりを尊重できるような仕掛けをしているところが評価されている。
- ・受講生のモチベーションをあげ、自主性と積極性を育むことを目的に OHP や HP を活用した授業を試行錯誤しながら行いたいと考えている。
- ・「授業に積極的取り組みたいと思える雰囲気」をどのようにつくればよいのか、方法論が漠としてよく分からない。
- ・グループ活動ができて良かった
- ・それぞれのグループができるだけ学習活動を継続的に行えるよう、いかにサポートするかが課題

【学生とのあるいは学生どうしのコミュニケーション改善】

- ・日常的なゼミ報告への事前相談にもう少し時間を割けるよう配慮したい。個別に話す時間を多く作ろうと思う。
- ・学生との距離を近づけるため個別面談を実施したい。
- ・就職活動等で学生の揃いが悪く、予習復習をさせることが難しい。
- ・「対話を大切にした」などの評価。
- ・相互の卒論をゼミの時間にチェックしあったが、お互いに「ここはこうしたら・・・」というコメントを積極的に述べてくれたことがよかった。少人数なのでこのような雰囲気は自然とできあがった。
- ・ゼミやオフィスアワ - 以外の時間にも、積極的に学生の相談時間を作り相談に乗ったこと、ゼミでの活発な議論を促したことが評価されていた。
- ・経済的に負担がないよう、大学のマイクロバスを使用して、萩合宿に行ったことや、大学外に連れ出して授業を設定したことで、団結力が増したように感じられた。
- ・夏休みに各自自由にテーマを設定し、レポートを作成することを課した。その準備のために、春学期学期末にゼミ生全員に面接を行い、テーマの設定やレポート作成についてアドバイスをを行った。

【フィールドワークの活用】

- ・フィールドワークを重視したことに評価が得られた。
- ・ボランティアに参加したことが評価された。
- ・学外への調査・研究活動を実施し、学生の学習・研究意欲をより一層喚起したい。
- ・学外での学習を提案したが、学生の時間割の都合で難しかった。地域社会に接する機会をもっと増やしていきたい。

【他ゼミのとの交流】

- ・最終的な卒業研究発表会だけでなく、それ以前の中間的な研究発表会を他のゼミと合同で行いたい。
- ・他大学との合同ゼミなどを企画中。
- ・他ゼミ及び他大学と共同で調査実習をして、学生同士の交流や役割分担、知識の交換ができた。
- ・同志社大学との討論会を実施したことが「非常に勉強になった」との評価を受けた。
- ・適切なアドバイスをもらえるところ、熱意をもって指導してくれるという評価を受けた。

【細かな卒論指導】

- ・卒論の中間報告、中間原稿の提出、添削を数回にわたって行ったので、有る程度丁寧な指導が出来たと思う。
- ・卒業論文の指導では、個別に参考文献リストや資料を提示するなどきめ細かな指導をしたことが好評であった。
- ・もう少し早い段階から卒業論文へ取り組むよう呼び掛ける。
- ・「テーマ設定報告」の回数増加等、夏休み前の卒論テーマ設定作業にもう少し時間と労力をお互い投入できる仕掛けを作りたい。
- ・テキストの報告の事後指導や卒論テーマの指導を徹底したことで「学んだことが身についた」との評価を受けた。

【就職活動とゼミ】

- ・就職指導についても、早い時点から相談を行っていることも評価された。
- ・公務員対策のためのサブゼミ開催を行いたい。
- ・卒論や就活に対して熱心に対応したことが良かった。

【授業進度】

- ・読書のペースが速すぎた。
- ・授業の進度が早いという回答があった。
- ・一人一人がどんなテーマに関心をもっているかを観察しようとしたが、まだ卒論テーマを絞るという段階には至らなかったため、この点、次年度はスピードアップしなければならないと感じている。

【授業時間数と補習】

- ・「全体的に時間が足りない？」という意見を頂いた。ゼミの人数のこともあるが、毎時2人の発表を行い、発表に基づき討論すれば、90分は有効活用できると思う。
- ・サブゼミをより充実させ、本ゼミでの議論の活発化につなげたい。
- ・演習指導が必ずしもカリキュラムに拘束される必要がない点をもいかし、より多様な形での出席と指導回数を増やす必要を感じた。

授業環境

【就職活動の影響】

- ・秋学期後半になると就職活動があってゼミ指導が困難になっている。2
- ・秋学期に入って学生の就職活動も始まり、卒論準備への指導が例年に比べて十分に実施できなかった。この点については、来年度からは早めの指導を心掛けたい。

【欠席・遅刻】

- ・就職が決まったのに出席率の悪い学生がいる。
- ・少人数教育のため、受講生数人の遅刻が授業時間開始を遅らせる原因となっている。欠席の多さとともに、より厳格に対処する必要がある。

【ゼミ構成】

- ・教養演習の授業に上級生がいた時は内容がもう少し充実していたように思う。2年生や3年生もクラスに入れたほうが良いと思う。

【物理的要因】

- ・施設・機器の面で、暖房の調整が教室でできるようにしてほしい、DVDプレーヤー・プロジェクターを設置してほしい等の要望があった。
- ・「5時限目は寒い」という指摘がなされている。演習科目の特性として、時間延長はあたりまえと私は考えている。しかしながら、中央制御方式の冷暖房は、演習室のあるB講義棟では5時限目になると機械的に切断される。
- ・本コメントに書くべきことではないのかもしれないが、冷暖房機器の充実を求めるコメントがあった。

- ・「図書館のグループ学習室に冷暖房を入れてほしい」というのがあった。資料収集のため図書館のグループ学習室を使うことが多かったが、12月にならないと暖房が入らないと言うのは、新型インフルエンザが流行していたことを考えると、かなり問題があると思う。学生の健康面への配慮義務に反するのではないか。
- ・「声が聞き取りにくい」という指摘があった。教室の音響にも問題があるのかもしれない。
- ・椅子が固いと指摘がある。学生の声に基づいた授業環境の充実が必要。

その他

- ・研究室（ゼミ）のHPを立ち上げた。
- ・3年ゼミと4年ゼミでかなり評価が違っている。
- ・専門演習に関するアンケート項目は自由記述中心の具体的な指摘へ改善した方がよい。
- ・授業最終回にできるだけ近い日程で授業内容の全容を受講者が見切ることが可能な状態で回答してもらうことができなければ授業アンケートの意味がなくなる。
- ・大学生としてふさわしい日本語力を身につけるように指導していきたい。
- ・「先生の説明が丁寧でわかりやすい」という記述のみであったが、必ずしも東洋史に興味を持った学生が受講しているわけではないので現状にかんがみて、今後とも噛み砕いた解説を心がけるようにしたい。
- ・音読は内容理解にとって効果的であった。

語学

内容

【外国の文化と社会の理解】

- ・「中国文化が分かった」という記述があった。
- ・学習意欲を高めるため、ソフトな話の内容は受講者が関心ありそうな中国の文化・風習・最新事情などにした。
- ・韓国の最新情報や文化を紹介した。
- ・世界の食文化に触れられたので良かったというコメントがあった。
- ・テキストに関連したもの(あるいは少々脱線したものを)を説明することで、イギリスや外国への関心を少しでも引き出せたのではないかと思う。
- ・現代日本の社会問題を生の日本語で聴かせる練習は学生に良い教材になった。
- ・実際に身の回りで起きている事柄が英語でどのように表現されているかを「英字新聞」等を活用して説明した。
- ・リスニングを中心に、アメリカの文化、社会に目を向ける DVD を利用した授業を展開した。
- ・発音を繰り返し練習したこと、中国の文化・風習などに関する内容を授業に取り入れたことなどが良かった点として挙げられました。
- ・授業と関連ある言語表現や文化知識を加えたことが評価された。
- ・経済関係の英文エッセイを読ませた。経済に関する英文を今後も読みたいと希望する学生がいた。

【学力格差・学習意欲の差】

- ・学力不足の学生にも楽しんで授業が受けられるようにしたい。
- ・英語力に不安がある学生への対応を考えたい。
- ・前期試験で来年度入学する経済学科のトップ合格者の英語のセンター試験の得点が 50 点であった。このような現状を踏まえたうえで、いかに彼らに具体的な到達目標を設定し、モチベーションを維持させていけばいいのかが課題であり、英語担当者だけの問題ではなく、全体の問題として考えていく必要がある。
- ・学生のレベルの差が大きい。
- ・「学生のレベルが違うので、答えられないと思っても無視しないで下さい」というコメントがあった。「低いレベルから高いレベルへ、元のレベルが高い人はより高く」という思いが先行しすぎたことが原因で、このようなコメントがあったのだと反省している。
- ・学生のレベル差があるので、授業スピードを速くしても良いというコメントがあったが、なかなか難しい。
- ・質問が自由にできるような工夫が必要である。
- ・約 3 割の学生は意欲的だったが、残りはあまり学習意欲がなく、質問時間を設けても理解していないのに質問ができない学生がほとんどだった。
- ・学ぶ気持ちが見られない学生と、非常に熱心な学生と、その間にある学生がほぼ同数の割合でみられた。
- ・授業中の反応が少ない。

方法

【話す力・発表する力の育成】

- ・「もう少し朝鮮語を話せる授業内容であってほしい」という意見があったので、学生の能力や要望に応じた指導ができるように工夫していきたい。
- ・自身の発表する力を養成することに重きをおいていたため、教科書を使う機会が少なかったのは事実である。今後は教科書をソースとして利用する場合の有効な方法を紹介したい。
- ・学生に発表させたことは日本語の上達のうえで有効であった。
- ・一人ひとりが発音できる機会を設けた。
- ・一人ひとり発表させることで学生にチャンスを与えるようにした。
- ・授業中できるだけ多く指名し、発音、翻訳させたり、中国語の短文を作らせた点が評価された。

【聞く力の育成】

- ・聞く練習ができることが評価された。
- ・ネイティブの長所を活かしてできるだけ生きた朝鮮語をたくさん話し、たくさん聞けるように工夫したのが良かった。

【書く力の育成】

- ・論文の書き方を身に付けられたという学生がいた。

【能力に応じた学習方法】

- ・外国語もある程度修得するとそれ以降の上達の変化が知覚しにくくなるので、外国語習得の特性を理解するガイダンスが必要である。地道な練習の中にもプラスのフィードバックを体験する状況を作る工夫を考える。

【時間配分】

- ・時間配分が下手なので気をつけるようにしたい。

【説明の分かりやすさ】

- ・英語のみで指示や説明をしたので分かりにくいというコメントがあったので、より易しい英語を使って授業をしたいと思う。
- ・説明が分かりやすいという評価を受けた。2
- ・学生に理解してもらうように工夫したことが、学生が興味を持って授業に臨む環境作りにつながった。
- ・声が聞き取りやすいという評価を受けた。
- ・前回のアンケートでは「はっきりしなくて分からない」という評価を受けたが、今回は「違う点は違うと言う」という点が良かった点としてあがっていたので、前回に比べて改善できていた。
- ・広い教室だったのでマイクを使用した。
- ・テキスト以外の単語を紹介したのが良かった。
- ・訳を何度も繰り返したことが評価された。
- ・文法的な解説を多く取り入れ、なぜそのような訳になるかを細かく説明した。
- ・訳だけでなく、内容の理解や英語の使い方にも重点を置いた。
- ・学生が分からないことを丁寧に教えたことが評価された。
- ・質問が出れば、授業の展開にメリハリが付き、授業が進めやすい。今後も質問の時間を設け、丁寧に説明していくようにしたい。

- ・母語（日本語）と外国語との対比は理解の手助けになった。
- ・難しいところは繰り返すように改善したい。
- ・新出単語の意味の発表後に、重要な構文や文法の説明を実施した。
- ・まず学生に英文を読ませると同時に和訳させ、その後訳と補足説明を同時に行った。
- ・声の大きさについて改善すべきという指摘があった。

【学生の主体的な授業参加】

- ・「ディスカッションがおもしろい」という評価を受けた。
- ・4人ずつでディベートを行った。
- ・ディベートやグループディスカッションのやり方を工夫すべきだったと思う。

【板書の改善】

- ・板書の説明が分かりやすいという評価を受けた。
- ・板書を細かく書いてほしいという指摘を受けた。
- ・「キーワードしか板書しなかった」というコメントがあった。学生が板書を書くのに忙しく話が聞けなくなるといった状態を避けようとした結果、キーワードを板書するだけになっていた。
- ・いかに受講者に自宅で予習復習をしっかりとさせるかが課題（2）。

【学習意欲の喚起】

- ・学生に対し、卒業後の自分を想定し、そこから自分を逆照射し、何をどう学んだらよいかを常に問いかけた。

【自宅学習の改善】

- ・学生の自己学習をサポートするため、インターネットを使った宿題やメールでの宿題提出を取り入れたい。
- ・予習をDVDで行うように指示した。全体的に予習した学生は多かったが、DVD設備を持ち合わせない学生もいると思うので、今後、DVD等の視覚資料は授業で見られるようにしようと思う。
- ・大学卒業後も自分でできる英語の勉強法を紹介した。

【視聴覚教材・補助教材の活用】

- ・学生に興味を持たせるため視聴覚教材を用いた（3）。
- ・「映像資料があればよい」というコメントがあったので映像資料を用いたい。
- ・ドイツ語の音楽を歌詞の説明を含めて教材として取り入れたことが好評だった。
- ・補助教材を配布することが有効であった。

【小テストの活用】

- ・小テストを授業終わり15分で実施した。学生に自分の弱点を自覚させるという点で有効だった。
- ・小テストが毎週あってよく勉強したという意見と、小テストが負担になったという意見があった。
- ・小テストなどで一人ひとりの力を評価したことが評価された（2）。
- ・学期のはじめにユニットを終えた次の週に小テストを行うことを学生に知らせたが、一部の学生が覚えていなかった。来年度は学期初めの他、小テストの前の週にも知らせるようにしたい。
- ・学生が話した内容を録音しそれを聞いて書き写し、その書き写した文章にアドバイスを書くことを行った。

手間がかかるが、一人ひとりの学生の現在の能力を良くチェックしフィードバックできるので続けている。
また学生はそれが力になっていると言ってくれるので嬉しく思う。

【パソコンの活用】

- ・「パソコンを介して英語の勉強をするという習慣が身に付いた」というコメントがあった。この授業ではエッセイをタイプして、宿題をオンラインで行った。また、グループライティングでもパソコンを用いることが多かった。

【授業進度】

- ・シラバス通りに授業を行ったので、予習の目安になったと思われる。
- ・シラバスに十分に從って進まなかったことを反省している。
- ・シラバス等を利用して、先生が学生に何を求めているか（評価基準等）をより明確にする必要がある。
- ・授業のペースについて、繰り返し説明しているため、学生によっては感じ方が逆の学生がいる。
- ・進む速さがちょうどよくて良かったと評価された。

授業環境

【欠席・遅刻】

- ・一限目であるためか、遅刻者が多かった。改善が必要である。
- ・不合格者のほとんどが出欠や授業態度等の平常点も悪い。今後このような学生に対してどのように指導すればよいのか、教育課題としたい。

【物理的環境】

- ・教室の環境が最適であった。
- ・エアコンが常に 27 度に設定されており、夏は冷房が効きづらく、冬は暖房が効きすぎていた。
- ・暖房の音がうるさいという意見があった（2）。
- ・「周りのレベルが低すぎる」という評価があった。
- ・学生が間違いを恐れると質問しなかったり自分の書いた文書を見せなかったりしてもったいない。学生が間違っても丁寧に指摘して説明することが大事であると改めて感じた。
- ・私語をする学生を厳しく注意したのが評価された。
- ・自由に意見を言わせたときなど、うるさくなる傾向にあったので注意が必要である。
- ・LL 教室でインターネットを使った授業を行ったが、40 人を超える学生が一度に同じサイトを利用できる環境が整っていないことが分かったので、今後は授業でインターネットを利用することは控えたい。
- ・LL 教室のパソコンに使えないパソコンがあるので直してほしい。
- ・LL 教室の機器、備品(ホワイトボードマーカー等)の調子が悪い(2)。
- ・LL 教室のパソコンに中間モニタがあると良い。
- ・教室に利用可能な CD プレーヤー、DVD プレーヤーがなく困った。
- ・就職活動と称して、授業開始から数回続けて欠席をする学生が度々いるので対応に苦慮する。
- ・出席率が低かったため、授業の進み方に大きな影響が出た。予定していたスケジュール通りに授業が出来なかった。
- ・3, 4 年生は態度が悪く、学生の管理(授業の運営)が大変だった。

その他

【クラスのコミュニケーション改善】

- ・「ブログが面白かった」というコメントがあった。クラスのブログを作り、そこで話題をあげて、授業でのディスカッションとは別に学生に話し合ってもらっている。
- ・間違ふことを恥ずかしがらずに楽しく学ぶことが言葉を修得するには必要である。このことが学生にも評価されたことは嬉しく思う。
- ・親しみやすい授業であったことが評価された。

【成績評価】

- ・「テストかレポートどちらかにしてほしい」というコメントがあったが、今回の成績評価の結果を考えると、テストかレポート一方だけを課した場合、合格者は三分の一にも満たなかったと思われる。

【その他】

- ・同一週内に2回授業を行うことが例年より多かった。偏りのある授業日も学生の理解を妨げる一因となっているのではないだろうか。
- ・学生の今後の学習意欲や動機を引き出すために、3年時の選択の中国語の授業を履修し継続して学習することや、検定試験を受験することなどを薦めた。
- ・クラス外の知識も習ったので楽しかったと評価された。
- ・成人式のため帰省する学生が多く、アンケートに答えてもらえなかったのは残念である。

実習

内容

- ・「式を見せて欲しい」という要望は、安易に解答を与えないようにしているので難しい。翌週の授業開始時に、前回の課題の復習をすると効果があるかもしれない。(コンピュータ実習)
- ・授業中に課題が完成しないのは、未完成部分を自習で補う意図で課題を設定しているので当然そうなるはず。ハンデを与える意味が理解できない。
- ・選択スポーツ種目を増加させることを検討したい。

方法

- ・毎回課題を与え、それを期日までにメールを使って提出させたことによって、情報リテラシ能力が身に付いたのではないかと感じた。

授業環境

- ・暖房が効いているのでのどが渇く。加湿器が欲しいという記述があった。
- ・1時限目の授業であったが、授業開始時には半数にも満たない学生しか集まらず、遅刻者が非常に多いことが気になった。

その他

- ・非常勤教員も含む担当教員同士の意見交換を積極的に行い、授業目的達成に向かってより一層の良いアイデアを実現したい。